



環境を整える

けやき台中学校には制カバンがありません。必要なものが入るものであれば、大きさやデザインは自由です。そのため、大きめのリュックで登下校している人が多いのではないのでしょうか。

しかし、備え付けのロッカーはそれほど大きくありません。リュックをそのまま入れると、上部や肩紐がはみ出してしまうことがあります。中には、授業中に教材と一緒に滑り落ちてくる場面も見られます。

では、自分のロッカーからカバンがはみ出ている状態はどうでしょうか。見た目がよくないだけでなく、下段のロッカーを使う人は、荷物を出し入れするたびにカバンを避けなければなりません。また、掃除の際にも、はみ出たカバンを気にしながら作業する必要があります。

もちろん、全員が同じ広さのロッカーを使っている以上、「お互い様」という面もあります。しかし、それは迷惑をかける側が言うことではありません。けやき台中学校の皆さんには、周囲に気を配れる人になってほしいと思います。（以前担任していたクラスでは、これを「まわり向き」と呼び、合言葉にしていました。）

掲載している写真は、本人の許可を得て撮影したものです。どのロッカーもカバンがはみ出しておらず、下段の人に配慮されていることが分かります。また、教材が立てて収納されているため、取り出しやすくなっています。さらに、ブックエンドを活用するなどの工夫も見られ、この状態をクラス全体で維持している点は特筆すべきことです。このようなクラスでは、ロッカーの上や床に物が散乱することも少ないでしょう。

「割れ窓理論」という考え方があります。1982年にアメリカの社会学者ジェームズ・Q・ウィルソンとジョージ・L・ケリングによって提唱されたもので、小さな乱れを放置すると、大きな問題へとつながっていくものです。

教室でも同様です。机の乱れやごみの放置といった小さな乱れが積み重なると、やがて全体の雰囲気は崩れていきます。一人ひとりが日常的に環境を整えることが、落ち着いた学校生活につながります。ぜひ全校で意識して取り組んでいきましょう。

